

令和8年度 第2回 学校運営協議会 議事録

令和8年7月2日（木）午前9時45分から11時45分まで

<参加者>

協議会委員 A氏（元特別支援学校校長）
B氏（浜名地区自治会連合会 会長）
C氏（湖西市民生委員）
D氏（浜名学園 施設長）
E氏（湖西市教育委員会学校教育課）
F氏（トヨタバッテリー株式会社）
G氏（本校PTA会長）

学校関係者 校長、副校長、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務主任

<議事録>

（1）校内参観

（2）開会の挨拶（校長）

暑さが増してきたが、子どもたちは元気に過ごしている。最近ニュースで子どもが亡くなる事故が何件もあり、子どもたちが安全に過ごせることを第一に考えていきたい。最近の取組について、小学部では、お店屋さんを開いて友達を招待し、人と関わる活動に取り組んでいる。中学部では、作業学習をとおして働くことの楽しさを感じられるように取り組んでいる。高等部は、産業現場等における実習で地域に出て働く経験をしている。また、教員研修では学部の枠を越えて小グループに分かれ、12年間のつながり検討会を行った。環境づくりや支援グッズを紹介し合ったり、ざっくばらんに意見交換をしたりした。「小学部で夢中になって遊ぶ経験をするのが、中学部で作業を自分からやってみる姿につながる。」「小学部段階から早寝早起き、挨拶、失敗にめげない力をつけることが大切」「人と関わり協働すること、自己決定する力を育てることが大切」など、共有することができた。

学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の資料（別紙配付）にあるとおり、「地域とともにある学校運営」に欠かせない三つの機能は、熟議・協働・マネジメントとされている。様々な御意見をいただき学校の活性化につながれば幸いである。

（3）これまでの活動報告等

合言葉「笑顔・夢中・つながり」に関わる姿の紹介

◎小学部

- ・交通安全教室では、交通指導員さんの話を聞き、学校近くの坂道を歩いたり、横断歩道を渡ったりした。

- ・運動会では、徒競走や子どもたちに合ったブロックごとの演目で、夢中になって取り組む姿がたくさん見られた。
- ・高等部農耕班生徒と一緒にさつまいもの苗植え交流を行った。
- ・新居小学校との交流1回目に取り組んだ。(秋にも1回行う。)
 - 一緒に走る、好きな音楽を一緒に聴くなどして交流した。
 - 新居小学校の児童から、うまくいかなかったことも感想にあげた。今回、本校の教師と児童との関わり方を新居小の児童が知る機会となったため、次回に生かせると良い。
- ・図書館ボランティアの方による読み聞かせでは、笑顔で夢中になって見聞きしていた。
- ・7月に各学年校外学習の計画をしている。(3・4年…イオンタウン湖西新居、5年…湖西消防署南分署、6年…ウォットなど)

◎中学部

- ・1年生を迎える会…2・3年生で計画運営をし、楽しく関わることができた。
- ・交通安全教室…新居文化公園前の大きな交差点で実施。まわりの安全に気を付ける、自分で判断するなど、命を守るための学習ができた。
- ・修学旅行…公共交通機関を利用し、横浜、小田原へ行った。
 - 鉄道模型博物館、赤レンガ倉庫、小田原城、かまぼこ・ちくわ作り体験など、笑顔で夢中になれる多くの経験をすることができた。
- ・2年宿泊学習…地域の産業・文化・観光について事前学習をして体験、見学に取り組んだ。
 - 河合楽器竜洋ピアノ工場見学、春華堂スイーツバンク見学・買い物など、楽しく学習できた。偏食のある生徒もみんなと餃子を食することができた。浜松市立青少年の家へ宿泊した。
- ・おはなし工房やまねこ読み聞かせ
 - 3年生徒への読み聞かせ指導をしていただいた。→7月に3年生が小学部の児童へ読み聞かせを披露する。9月は2年生を対象に同様な学習を設定する。浜名学園の方、地域の方にも来てもらえるとうれしい。
- ・7月の音楽発表…自治会長加藤様と地域の方が見に来てくださる予定。

◎高等部

- ・1年生を迎える会…1年生は緊張した様子であったが、自己紹介をしたり、2・3年生と一緒にクイズに答えたりすることができた。
- ・3年修学旅行…1日目は、全員で神戸トリックアート、防災センターを見学。2日目は、2グループに分かれてのグループ活動を実施。
 - 文化景観グループは、あべのハルカスで景色を見たり、なんばで食品サンプル作りをしたりした。歴史グループは、大阪城や道頓堀散策をしたり、食品サンプル作りをしたりした。
 - 3日目は、USJ へ行き、3グループで活動した。自分たちで

考えたコースを回り楽しむことができた。

- ・交通安全教室…真剣に交通指導員の方の話を聞き、取り組んだ。雨のため自転車に乗る予定だった生徒も徒歩での学習となった。地域の方にも協力していただき、学校周辺道路の歩行を安全に行うことができた。
- ・1年校外学習…6月に浜名学園きぼう・なぎさ作業所、日東電工ひまわり、すこやかファーム湖西を訪問し、働く姿を見たり説明を聞いたりし、学習した。
- ・2、3年産業現場等における実習
企業での実習は、ヒーローズ湖西（保育園）、PEVE スマイル株式会社など。
地域で働く経験を繰り返し、卒業後の進路選択をする。

◎Instagramの活用状況

- ・R7年12月に投稿開始。
- ・日々の学習の様子など、皆さんに見てもらえるような投稿をしていく。本校への理解を深めるきっかけとなると良い。高等部に入学したい中学生が増えるといい。
- ・学校案内にもインスタのQRコードを掲載した。

◎はまな talk（12年間のつながり検討会）※職員研修

- ・小グループでの意見交換（他学部とのつながり）

◎前回の学校運営協議会から

- ・消防署防災センターの運用開始について…防災課長と共有
- ・湖西消防署南分署への校外学習（小5「働く人を見に行こう」の授業の一環）

（4）質疑応答・感想など

B氏：校内参観では、元気に活動している様子が良く分かった。

中学部の掲示物（宿泊学習や修学旅行の様子）は、コメントがあり個人の様子が良く分かった。また、中学部からいろいろな行事の情報をもらうことで、中学部の学習に足を運ぶ機会を作ることができた。情報をもらうと「行こう」という気持ちになる。

高等部の掲示物を見て、体験で身に付くものが大きいと感じた。

C氏：校内の掲示物が、季節の題材を取り扱っていて良かった。

P T Aの七夕の掲示も工夫されていた。

学部ごとの報告を聞き、豊かな体験をしていることが良く分かった。笑顔、夢中な写真をたくさん見ることができた。各学部の学習のつながりを感じた。

D氏：6月4日に高等部1年生がなぎさ作業所ときぼうに見学にきた。一般就労を目標にしている生徒についても、福祉事業所の様子を知ってもらい、選択肢の一

つになれば良い。興味をもってくれている様子があった。

E氏：小学部の新居小学校の交流について、互いに緊張があると思うので、年間2回にすることで多様性の学び、集団での学びなど深まると感じた。機会を増やす工夫をしてもらえてありがたい。

小→中→高とつながり、小学部段階から将来を見据えた指導をしているところを見習いたいと思う。

F氏：校内掲示で楽しそうな笑顔をたくさん見ることができた。事前に調べたことを経験し、身に付ける取り組みが良い。実習を受けたときも、多くを学ぶ機会にしたい。こんなことを学びたいなどあれば教えてほしい。

G氏：高等部の実習は、1年生1回、2年生2回、3年生2回であるが、外に出る機会がもっと増えるとよい。短い期間でも良いので、自分の適性を知る機会を増やせないか。

高部主事：教育課程全体を見て、みんなで考えていきたい。

A氏：前回から数か月で、また新しい姿を見ることができた。一人一人が生き生きしているのが分かった。目的をもった学習が、12年間つながっていることが大切。内進生、外進生が一緒になり新しいことに挑戦する姿勢が良い。

(5) 休憩

(6) グループ協議

テーマ『地域とつながる教育活動の深まりに向けて～海風祭の計画をとおして～』

・趣旨説明（副校長）

◎海風祭とは

- ・今年度は12月11日（金）に開催
- ・小学部から高等部が一堂に会して行う行事
- ・目的は3点
 - 「仲間と力を合わせて学習の成果を力いっぱい発表する」「認め合う」
 - 「保護者や地域の方に見てもらう」
- ・小中学部…体育館やプレイルームで発表、高等部…作業学習製品販売
- ・他学部の参観
- ・事業所販売（浜名学園、ZERO BASE 三ヶ日、ソレイユ）
卒業生がお世話になっている事業所に御協力いただく。

☆こんな取り組みはどうかなど、様々な御意見をいただき、参考に取り組みたい。

※各グループの協議内容は別紙のとおり

- A) A氏 C氏 E氏 校長 小学部主事 中学部主事 事務長
- B) B氏 D氏 F氏 G氏 副校長 高等部主事 教務主任

(7) 休憩

(8) 第1回コンプライアンス委員会 ※別紙参照

1 内容

① 不祥事根絶取組計画 説明（副校長）

○交通安全

- ・毎月事故目標 自己チェック
- ・静岡県安全運転管理協会からの情報提供
- ・PC 上での安全委員会による投げ掛け

○人権意識

- ・毎月人権チェック
- ・「セクハラ」アンケートの実施
- ・「いじめ・体罰」アンケートの実施

○職員会議ミニ研修

- ・グループワーク
- ・懲戒処分の公表（掲示板で周知）
- ・教育公務員としての行動（長期休業前に紙面で説明）

○その他

- ・情報漏洩
- ・適切な事務処理
- ・ストレス・カウンセリング通信 紹介
- ・コンプライアンス通信 紹介

② 意見交換

(9) 閉会の挨拶

※次回、第3回学校運営協議会は、10月30日（金）に行う。



第2回学校運営協議会 グループディスカッション 記録（Aグループ）

令和8年7月2日（木）
司会：A氏 発表：中部主事

テーマ「地域とつながる教育活動の深まりに向けて～海風祭の計画をとおして～」

A 氏：コロナも終わり、海風祭における地域のつながりの再構築ということで、以前、事業所の人たちの販売の様子や販売場所等、分かる方は教えてほしい。

小主事：中庭や食堂を使っていた。

A 氏：子ども達にとっては、自分の卒業後の生活をイメージする機会になり、進路希望先の施設の方に知ってもらう機会にもなる。単に昔の形に戻すのではなく、在学中からのコラボレーションなど、発展的な意見が欲しい。以前は、湖西市市民会館で福祉祭りがあった。今は、とても小規模になってしまったが、子ども達が作業製品を販売したり、発表を見たり、大規模にやるのではなく、少し地域と関わろうといった感じで良い。今年度、出店依頼をする「ソレイユ」や「ゼロベース」について教えてほしい。

高主事：「ソレイユ」はパン事業を始めた。経営が変わり、県外の学校給食に携わっていた会社の息子さんが社長になった。生活介護「ソレイユ」事業所でパンを作っている。「ゼロベース」は、幅広く取り組んでいて何の事業とは、はっきり言えないが、Tシャツやキーホルダーを作ったり、みかんのジャムを作ったりしている。

A 氏：地域には根付いているのか。

高主事：以前は三ケ日も本校の学区だったため、当時は、多くの卒業生が利用している。三ケ日の地域性は強い。ただ、去年卒業した生徒は湖西在住だが、利用させていただいた。

A 氏：この学校の「おやじの会」の会長さんも、ゼロベースの法人の代表森田さんという方。退職の会という、毎年お疲れ会をしているが、三ケ日がもう学区ではなくなったが、参加してくれている。お父さん達も、力を借りたいと。親が年を取ってきて見られなくなってきた時に向けて、今は何ができるかを考えようという、勉強会と懇親会みたいな感じで活動している。

中主事：今年も天野さんが音頭を取り、奉仕活動の手順を指示してくれた。

校 長：教員の積極的な参加を希望されており「こうしてほしいな」といった話もされた。教員も勤務時間外になるため強制できないが。企画はいい機会だなと思う。

E 氏：海風祭の時に、事業所さんが営業しているところに小中学部や高等部の子たちが買いに行くとか、見に行くみたいなことは企画されているのか。

校 長：保護者が買いに行くだけ。

E 氏：保護者だけというイメージなのか。売っている姿を見ることも、買う練習の一つになるのかと思う。実際に、子ども達が自分でお金を持って買いに行くとなると、外に買い物に行かないとできないところを、来てもらっているのならそこで小中とは言わずに中学部でも高等部だけでもやるとか、そういうのも一つ練習になりつつ、働いている姿を見つつというのはできるのかなと思う。ただ、お金の問題がかかってくるので難しいとは思いますが。

A 氏：そういう時間を、販売準備の時に、交代で事業所さんの方に見に行くことができるので、良い。

C 氏：保護者とか全然イメージができていないが、イメージができていないからこそ、相談という形があると思うので、親御さんが製品を買って事業所の話聞けるのも良い。思い切って親御さんが販売ということも考えられるのでは。

校 長：発表は体育館とプレイルームで行い、会議室で販売を予定している。ゼロベースさん達に対応していただいても、児童、生徒が移動してしまっているの、なかなか見に来ることができない。もしできれば、空いている時間だけでも。子ども達も発表が〇年生が〇時から〇時のように、学年ごとで時間が分かれている。

E 氏：発表時間がずれていれば、小学部も見ることにはできる。買うのは難しいと思うが、せっかく来てくださっているのであれば、親御さんにその企業等を知っていただいて、進路先としてこういうところもあることを知っていただく良い機会にもなると思う。子ども達にも見てもらうと良い機会になるのではないかな。なかなか見学には行けないので。

A 氏：興味を持てば、ゼロベースさんやソレイユさん、それぞれの施設のお祭り等のイベントに行くと様子がよくわかる。保護者と行ってもらう形にはなるが。イベントの広告もあれば、親御さんが手に取って、こういう事業所があるのだと知ることができる。親御さんが連れて行く必要はあるが、良い機会になるかもしれない。

校 長：お互いに知らないの、**「こんな様子で活動しているよ」**という掲示的なものがあると良い。

E 氏：作っている所の手順なども画像があるとイメージが湧く。こういう風に作業して、こういう風に作っているみたいなのがあると、子ども達が見た時に、**「あ、ちょっとこれいいな。」****「やってみたい。」**と思えばそれは一つのきっかけとなる。

A 氏：発表の様子を見てももらったり、見せてもらったり、相互にできると良い。

E 氏：準備の時間に見に行くと、こうやって製品を置くと見やすいよとか、こういう風に置いたら綺麗に見えるだとか、アドバイスをいただくと勉強になる。道の駅に時々ひまわりさんの製品が売っていなかったか？

校 長：ある。当日の会場配置については、高等部の販売場所が3階4階に分かれているため、1箇所に集中させるのはどうかと検討している。開催時間については、以前は午後まで行っていたこともあるが、現在は子ども達の体力を考慮して、午前中にまとめる流れが主流となっている。

E 氏：小学部の子たちは3時間もつのか？

小主事：自分達の発表をメインに行い、一度教室へ戻って休憩を挟みつつ。時間が余ると、中学部の発表を見たり、高等部へ行ったりという感じ。一度教室へ行って見て待っている間に、行ける子は短時間で行く。

E 氏：昨年度は午後の体験の時間があつたので、良い時間になったと思う。時間が短くなったというのは、理由があるのか？一日では長いのか？

小主事：昨年、午後の活動も用意してくれたが、なかなか参加できず、中学部の発表もほとんど見られなかった。

E 氏：大体の行事は午前中にまとめていくというのが、働き方改革も含めながらの対応ではあるだろうが。少しまとめるのはどうかと思うが、行事を午前中にまとめて実施しているというのは、全体的な傾向ではあるのか。

校 長：小学部も運動会等、行事はまとめるようになってきている。

小主事：過去には、作業製品販売やクラス展みたいな場もあり、子ども達が見学に行ったり、作品展みたいなものがあつたり、PTAさんが遊び場コーナーみたいなもの準備してくれたりしていた。そのおかげで、小学部の子たちが分散して行ける場所があつたが、コロナ禍をきっかけに、いろいろとシンプルになり、今の形になっている。

E 氏：中学部の子たちの午前中の時間の使い方としては、自由に見に行く。保護者と一緒に見に行くという感じか。

中主事：どこを見に行くか考えるのも自分たちで話し合いながらという感じ。総練習と当日の両方でどちらかが見られるみたいなイメージ。

E 氏：製品販売の時間と、参加の時間が被っているのです、その時間で高等部にも見に行けるといことか。そうであれば、「高等部に行ったらこういうものを作るのだ。」という見通しも立つので、これは絶対に見に行った方がいいなと思う。高校生の売っている姿を見ながら、ぜひ事業所さんも見学できると良い。特別支援学校の良さは、本当に将来を見据えて、いろんな年齢の子たちが関われるのがここの良さだといつも思っている。せっかくこれだけ色々な人達が集まるので、機会の活用を。大変になってしまうかもしれないが。

校 長：我々ももう少しきちんと考えてみないといけない。目的をもう少し考えて進めていけたらと思う。

G 氏：昔はPTAバザーも行っていた。不用品を集めて、それを地域の人達が買いに来ていた。また、ボランティア活動もした。砂糖を買いに来たとか町民とか行列で整理をした。全てコロナの前のこと。

<まとめ>

- ・お互いが知り合う、見に行くことに関して、事業所で販売している時に、中学部や高等部が見に行ったり、子どもが自分で買う機会があったりすると、子どもの経験にもなるのではないかな。それが無理であれば、高等部だけでも買いに行くとか、そういう工夫があると良い。
- ・発表以外の時間で高等部の販売準備をする時に、交代で事業所の販売を見に行くとか、空いている時に行ける時間は見に行く。小学部の児童も時間を決めて見に行くと、親子共に進路先を知ってもらう機会にもなるかと。進路希望先として見に行くのは早いと感じると思うが、子どもが見る機会があるといい。
- ・それぞれの事業所で行うお祭りなどに親子で参加するとか、そのためにイベント当日の広告や事業所の普段の広告を置いておく等、「こういうお祭りがあるよ。」という広報もしたらいいのではないかな。当日の販売だけではなく、事業所で活動している様子を掲示しておく。すると子どもにとっても分かりやすいかなとか、こういう仕事をやってみたいなという気持ちにつながるのではないかな。
- ・また逆に、地域の方や販売に来た方にも発表の様子を覗いてもらうとか、そういう時間も相互的な学びという良さがあるのではないかなという意見があった。
- ・今年度、三つの事業所が販売するが、年々少しずつ増やせると良い。ひまわりさんとか、他の事業所も少しずつ増やしていけるといいかなと思う。事業所の方が高等部の販売準備の様子を見に行く時間があれば、製品の置き方や陳列方法のアドバイスをもらう良い機会になるのではないかな。高等部の生徒にとっても勉強になるのではないかな。
- ・海風祭の目的自体をはっきりさせることで、関わりがメインであれば、今年度は10時開始で午前中には終了するが、来年以降どのように海風祭当日を計画したら目的が達成できるかというところも再度検討するといいいのではないかな、という話が出た。

第2回学校運営協議会 グループディスカッション 記録（Bグループ）

令和8年7月2日（木）

司会：副校長 発表：高部主事

テーマ「地域とつながる教育活動の深まりに向けて～海風祭の計画をとおして～」

司 会：ざっくばらんに御意見をいただきたい。

G 氏：事業所販売について、コロナ前は昼休みに食堂で行っており、生徒や保護者も買いに行った。ただ、一日開催であったため、それができた。

司 会：今年度は午前中開催となっているため、児童生徒の発表・販売と並行する形となる。事業所販売の当日のスケジュール（準備や販売時間）の調整はこれから行う。

G 氏：事業所販売に多くの人が行けると良いと思った。生徒もお金をもって買い物するなど。その他にも、以前は絵を描いている人の展示など、いろいろな展示があった。趣味で絵を描いている卒業生もいるのではないかな。

司 会：今後、可能な範囲で考えていく。PTAとしてやりたいことがあれば教えていただきたい。

G 氏：以前、文化事業委員では、バザーをやっていた。

司 会：PTA役員での実施は、すぐには難しいかもしれないが、いただいた意見の中でできるところから考えていく。

B 氏：以前は地域の子ども会と関わる機会があった。子ども会の会員も減っている。活動ができない現状もある。以前は子ども同士のふれあいができていたように感じる。海風祭は平日開催なので、子どもとの関わりは難しいかもしれない。コロナ禍以降、疎遠になっているところもあるので、地区の人達に来てもらえると良い。6町内会に回覧板を回し、考えるきっかけになると良い。

司 会：6町内会まわすとしたら何部必要か。

B 氏：約100部。地区の定例会（第二木曜）で分けることができる。まずは情報提供が必要。

司 会：何月頃までに準備できれば良いか。

B 氏：10月末までにほしい。

F 氏：新居小学校との交流つながりで発信できると良いのではないかな。

司 会：間接的に掲示や作品で関わるのも良い。

F 氏：平日なので、子ども達の参加は難しいが、新居小学校の保護者へのPRはできると良い。

D 氏：浜名学園なぎさ作業所は、今回事業所販売として、寄せ植えなどを準備する予定。土を扱うので、室内での販売が心配である。今まで、販売するときは屋外が多い。

朝は、送迎車を使って通う方が多いため、準備のことを考えると、早くても10時半頃からの販売になるのではないかな。

司 会：屋外の方がよければ、昇降口前も使用できると思う。無理のないように計画したい。

D 氏：屋外の方がありがたい。

司 会：地域でポスターを貼れる場所はあるか。

B 氏：ある。公民館など。

販売方法について、以前は券と引き換えに商品の受け渡しをしたような気がする。予約のような形で。

高主事：事業所販売に来てくれた方が、販売だけでなく、発表の参観もしてもらえるとうれしい。

司 会：浜名学園様やトヨタバッテリー様でポスターを貼ってもらえるか。担当から相談させてもらいたい。

D 氏：浜名学園では、セブンイレブンや銀行に依頼し、貼らせてもらったことがある。依頼する場合、終わった後の引き取り方法の確認もしておくが良い。

G 氏：以前、PTA役員の役割で地域にポスターを貼っていたことがある。

司 会：平日開催で子ども同士の関わりは難しい面もあるが、様々な方法で広報していきたい。